

第4回 楽しいつどい
～ いろいろな楽器の音色を楽しむ ～

2月3日(土)。立春の前日に邪気を払い、無病息災を願う豆まきを行ないました。

朝の挨拶の後、各担任から節分の意味や豆まきの話をしていると、どこからかズシ〜ン！ズシ〜ン！と金棒の音が響いてきて、だんだん自分のお部屋に近づいてきます。年中・年長児にとってはこの時間が一番怖いようです。背筋を伸ばして【神妙な顔】で椅子に座っていました。

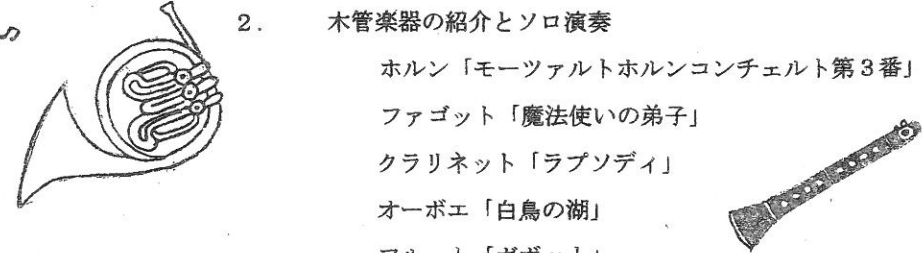
しばらくして鬼がお部屋の前に姿を現した途端、担任の傍に飛んでいく年少児や泣いた子もいたようですが、一年に一度ぐらいはこのような気持ち(緊張)を体験するのも悪いことではないと思っています。けれど、鬼を登場させることでむやみに子どもを怖がらせたり、ヒーロー気分を鬼をやっつけるといった遊び感覚の豆まきにはしたくないと考えています。邪気を払う厄払いという言葉の意味を、子どもたちに伝えるひとつの方法として鬼を登場させているので、関大幼稚園の鬼は、幼稚園の中の悪いことや人間の心の中にある弱虫、泣き虫、怒りん坊等、良くないものを持って行ってくれるもの、【子どもの心を強くしてくれるもの】として出会わせたいと思っています。“怖いけれど、ちょっと頑張れば強くなれる”そんな風に思いながら鬼と向き合っしてほしいと考えています。

その後、お部屋を覗いた鬼は園庭へ。子どもたちも園庭に出て豆まきをしました。そして、豆まきの後はお部屋に戻って、今年一年の健康と幸せを願いながら、歳の数にひとつ加えた豆をいただきました。

2月5日(月) 関西大学交響楽団の学生さんを迎え、楽しいつどいを行いました。10名の学生さんに、それぞれの楽器を持って正面の椅子に座ってもらいホールに入ってくる子どもたちを迎えてもらいました。

「関西大学幼稚園子どものうた」の前奏は、“静かに太陽が昇り、大地がゆっくりと暖かくなっていき、新しい今日のはじまりを全身に感じることで、力が溢れ出す”というイメージで、プロの方が作曲してくださったものです。9つの楽器の音色が織りなす、いつもと違った「関大幼稚園のうた」を子どもたちに味わってほしくて、司会者はあえて曲名を告げず、歌いたくなったら心の中で歌いましょうと声を掛けました。厳かな感じのはじまりに、しばらく聞き入る子どもたちでしたが、徐々に(あれ?これ、知ってるぞ!)と微笑が広がり、口を結んだまま体でリズムをとり、楽しそうに聞いていました。

「誰かが星をみていた」は、9台の楽器の為のアレンジですが、今年はコントラバスが加わり、曲に深みが出て素晴らしい演奏でした。この歌を知っている年長児は、低い音の雰囲気を取り取ったようで、1オクターブ下げた低い声を出して口ずさんでいました。子どもたちの音楽的な耳の良さ(音の高低を聞き取る能力)に驚いた瞬間でした。これからも、本物の音を子どもたちに伝えていきたいと思っています。

- 「関西大学幼稚園子どものうた」の演奏
 - 木管楽器の紹介とソロ演奏
ホルン「モーツァルトホルンコンチェルト第3番」
ファゴット「魔法使いの弟子」
クラリネット「ラブソディ」
オーボエ「白鳥の湖」
フルート「ガボット」
 - 木管五重奏で「たきび」
- 

- 弦楽器の紹介とソロ演奏
コントラバス「天国と地獄」
チェロ「ドボルザーク交響曲第8番4楽章」
ビオラ「ブラームス交響曲第4番2楽章」
バイオリン「主よ人の望みの喜びよ」
 - 弦楽五重奏で「ゆき」
 - 子どもたちの歌
木管楽器の伴奏で「たきび」
年少児「冬ごもり」
年中児「こどもはかせのこ」
年長児「山の子」
 - 「誰かが星をみていた」の演奏
- 